



充実した最終学期に

校長 大谷 京司

3学期が始まり、体が縮こまってしまおうような寒さの中ですが、休み時間になると校庭から子どもたちの元気な声が聞こえてきます。中でも今子どもたちが熱中しているのがドッジボールです。1年生も4月頃に比べると格段と速いボールを投げることができるようになってきました。6年生のスピードボールにも下級生はひらりと身をかわしたり、自信をもってキャッチしたりしています。6年生が俊敏な動きで下級生を守ったり、下級生にボールを回して投げさせてあげたりしているさりげない優しい行動や言葉かけが印象的です。

このような6年生の後ろ姿は下級生の心にもしっかりと焼き付けられ、自分も今の6年生のような上級生になろうと1つのモデルとして憧れをもつことにつながると思います。卒業までの授業日はあと36日。下級生にかけがいのない優しい贈り物を残してくれています。

健康で平和な良き年となりますように



1月14日(土)に予定していた「どんど焼き」ですが、小雨模様だったため、16日(月)に延期して行いました。

子どもたちが書いた書き初めや家庭のしめ縄やお飾りを火にくべて焼くと大きな炎となって、灰が天高く舞い上がりました。

静かに歳神さまを見送ったあとは、中休みの時間に長い竹の先にお団子を刺して焼き、醤油をつけていただきました。

温かいお団子を食べると心も温かくなって、今年も良い1年になる確信をもてたようでした。



思いを筆にのせて

ぴーンと張り詰めた空気の中で、筆を走らせる音のみが響きます。3～6年生は一人ひとり、自分の今年への思いを四字熟語にして表しました。1年生は硬筆でひらがなを、2年生は3年生から始まる毛筆の練習ということで、漢字一文字を半紙に毛筆で書きました。いずれの学年も書く文字を選ぶ時点で自分の気持ちを整理して、思いのこもった文字とその意味を大切にしようとしていると感じました。



親子で凧あげ

1月21日(土)、相模川三川合流地点に集合して、子どもたちが和紙に絵を描き、学校の竹で骨組みを作った和凧を親子であげました。



時折冷たい風が吹く中、広い河川敷を親子で走り回りながら息を切らしていると、やがて、「おしるこができました」のアナウンスが。お椀を片手に配付場所に集まり、あたたかくて甘いお汁粉を口にした時は、みんな優しい笑顔になっていました。



収穫した大豆で豆腐作り

七沢で長年お豆腐屋さんを経営されている三橋さんを講師にお招きして、今年も子どもたちが育て収穫した津久井在来大豆を使って、お豆腐作りを行いました。

一晩水につけておいた大豆はもとの大豆よりぷっくりと2倍くらいの大きさに膨れます。それをミキサーにかけドロドロにしたものを煮込んでいくと、お豆のいい匂いが立ち上がります。各グループ、5年生の新リーダーがてきぱきと何をしたらよいか指示を出し、順番に豆腐作りの工程を体験して

いきます。10分ほど煮込んだ後、さらしの袋でそれをこしていき、そのしぼり汁が豆乳袋に残ったものがおからになります。温かい豆乳を試飲すると、「おいしい」という声があちらこちらで聞こえました。

その豆乳を温め、にがりを入れてしばらく置いておくと、やがて少しずつ固まっていきます。それをお玉ですくって、

昨年度作った木型に入れて重石(ペットボトル)を置いて待つこと約20分。見事に豆腐の出来上がりです。

今回、豆乳が薄くてお豆腐がうまく固まらなかったグループもありましたが、きれいに固まったグループのお豆腐をみんなで分けて給食と一緒に食べました。今回出たおからは、翌週の給食で調理員さんに卵の花として提供してもらいました。「姿を変える大豆プロジェクト」、次回は味噌作りです。

